

## 第 1 回野菜需給・価格情報委員会における夏秋キャベツ及び夏秋レタスを中心とした野菜の需給・価格見通しについての意見の概要

### 1 日時

平成 20 年 7 月 17 日（木） 13：30～15：30

### 2 場所

農畜産業振興機構北館 6 階 大会議室

### 3 委員

別紙のとおり

### 4 概要

独立行政法人農畜産業振興機構は、野菜需給協議会（以下「協議会」という。）の円滑な推進のため、野菜の生産、流通に精通した関係者で構成する野菜需給・価格情報委員会を新たに設置し、主要な野菜品目、今回は夏秋野菜、特に夏秋キャベツと夏レタスを中心に、当面の需給・価格見通しについて分析・検討を行った。その意見の概要は以下のとおり。

- ① 夏秋キャベツ及び夏秋レタスについては、昨年 8 月は高温干ばつと、9 月に台風による大雨で作柄は不良であった。今年は、昨年ほどの不作ではないが、平成 17 年のような豊作基調ではない。
- ② キャベツ、レタスに限らず卸売価格は先週末から今週にかけて下げている。数量が特別多いわけではなく、消費低迷によるものと思われる。特に、夏はくさい、夏だいこんは低迷している。物価が全体的に高騰する中で、野菜に消費が回らないとの見方もある。イベントの実施や食べ方の宣伝が必要。
- ③ 関西も関東と同様。ここにきて、価格が下落、消費も低迷している。今年は、これまでは中国産の問題以降、堅調な動きであった。しかし、最近は値段が少し上がるとカット販売をするようになってきており、量が伸びない。
- ④ 今年の消費動向としては、春先は低温により葉物サラダ類が低迷し、反対にいも類が良かったが、ここにきて逆転している。7 月に入り配送センターの取扱量が半減していることから消費の鈍さを感じている。
- ⑤ キャベツについては、今年は堅調である。前年からの持ち越しもなく、僅かであるが増加している。はくさい、だいこんについては、外気温があまりに高くなると消費が落ち込む。
- ⑥ 外食・中食の側からみると、健康ブームを背景とした野菜の需要はある。消費の拡

大のためには提案の仕方が重要。注文を待っているだけではなく、勉強会、提案会を開催するなどにより販売促進する必要がある。

- ⑦ 野菜の場合、卸売価格が30%下がっても消費者価格は10%しか下がらなかったり、反対に消費者価格が15%しか上がっていないのに、卸売価格は20%上がるということが往々にしてある。安定した価格で供給するという量販店側の意向はあるが、ある程度価格を上下させることにより購買意欲が高まるという面もある。
- ⑧ 消費者に対して、キャベツ1個、レタス1個の物の価値を正しく理解してもらい、ペットボトルのジュースや缶コーヒーと同等で良いのかと考えてもらうことが重要。
- ⑨ カットを含めた業務用の中心となるのは、キャベツ、はくさい、レタス。キャベツ、レタスでは、全体の8%程度が加工・業務用。
- ⑩ 加工用・業務用向けキャベツ・レタスのための特別な栽培方法がある訳ではない。ただし、加工用に求められることが多い大玉生産については、キャベツでは栽植密度を低くすることなどにより比較的大玉生産が容易であるが、レタスでは過熟球の問題があるほか、作物の性質として粗植が直ちに大玉化には繋がりにくく、容易ではない、などの課題がある。また、低コスト生産のためには規模拡大が必須であり、生産労力の過半を占める収穫作業の省力化が重要である。収穫機は開発されているが、一斉収穫に伴う収穫ロスの問題もあり、生産者の関心を広く集めるには至っていない。
- ⑪ 業務用への対応は、契約した量を確実に外食・中食業者に届けることが鍵。価格設定は市場を参考に行うが、契約産地が寒波などにより歩留まりが悪くなって他から購入して納入する場合、損失が生じる場合あり。
- ⑫ 輸入については、ここに来て中国からの輸入が回復基調である。加工業者は、品質と価格が合えば中国産で構わないとっている業者も多い一方、品目によっては絶対国産という場合もある。中国では日本の安全性にそって衛生面での設備が完備され始めており日本の需要があれば入ってくる状況。
- ⑬ 今後の価格の見通しについては、産地の生産量もさることながら、消費の動向によるところが大きい。ガソリンの高騰により3日に1回だった郊外店での買い物は1週間に1回になっているなどの状況もある。一方、産地側でも8～9月のキャベツについては、近年の温暖化により、今まで栽培可能だった産地で、できなくなってきたという面もあり、8、9月の価格は現状以下になることはないと思われる。
- ⑭ 資材の高騰の中で、今年の販売結果によっては、生産者の再生産に問題が生じかねない。事実、最近の価格の動向を見ると、緊急需給調整措置の必要性が高まっている状況にある中で、仮にそうなった場合は、第4回野菜需給協議会で確認したとおり、機動的な対応をお願いしたい。